2022年度かわさき市民公益活動助成金　事業成果PRシート

スタートアップ助成

団体名	特定非営利活動法人　鹿島田・新川崎まちづくりの会
事業名	南武線開かずの踏切解消まちづくり事業

目的・背景

南武線開かずの踏切解消に向けて、行政や関係事業者に住民の声を届けます。また、関係する沿線地域に最新情報を広くお知らせします。

年 2 回の文化行事・まちづくり講演会を開催することで、住民が顔を合わせて地域の将来を一緒に考える契機とし、問題解決のための取り組みに何らかの形で参画したいとする人を増やします。

事業の効果

自分の住む地域の将来を考え、問題解決のための取り組みに何らかの形で参画したいとする人は目標の 60%に対して 46～47%に留まりましたが、「参加は難しいが協力はしたい」とする人が1回目 28%、2 回目 41%ありました。課題解決の主体として関わる地域住民とのつながりは広がりました。

実施結果

文化行事・まちづくり講演会を2回開催しました。参加者は 1 回目 37 名、2 回目 21 名、合計 58 名でした。

NPO ニュースを 3 回発行、配布枚数は合計1万5千枚でした。

文化行事・まちづくり講演会の参加者にアンケートをとり、市民の意識や変化を把握しました。

問題解決のための取り組みに何らかの形で参画したいとする人は 1 回目 46%、2 回目 47%でした。

事業の課題と今後の展望

年 2 回の文化行事・まちづくり講演会開催を軸に、広報や対話を通じて顔の見える関係を広げ、住民自身が課題解決の主体としてまちづくりに関わる人を増やします。

川崎市や関係事業者との対話の機会を設けて地域の要望を届けると共に、町内会、自治会、商店会などまちづくりに関与する団体との連携を進めます。

南武線高架下の活用方法について他地域の経験を学びながら、住民の意見を行政に届けます。

7 月：コーラスとまちづくり講演会

10 月：JR 東日本横浜支社話合い

３月：腹話術とまちづくり講演会

2022年度かわさき市民公益活動助成金　事業成果PRシート

スタートアップ助成

団体名	NPO 法人地域で子どもを育む会
事業名	NPO 法人地域で子どもを育む会　保護者向けオンラインサロン

目的・背景

現代社会では、長引く新型コロナのため、経済の悪化、共稼ぎ家族、ひとり親世帯が増えており、発達障害やグレーゾーンと言われる障害を抱えている子どもの保護者の孤独が問題となっています。小学生となり、我が子が他のお子さんと違うことに気が付き、どうしたらよいのかなど、一人で抱えないで、同じ悩みを持つ親たちが情報を共有し、専門家からの正しい情報を共有、共感することで、孤独に一人悩む親をなくし、子どもたちの健全な成長の一助となることが目的です。

事業の効果

小学生の保護者向けということで、ターゲットを絞り、また、講師の方を毎月違う方をお招きし、テーマも毎月変えてご案内したので、より、ご自身の状況に似た悩みを持たれている方々に届くよう工夫しました。オンラインとリアル会場での設定により、月一回ではありましたが、より関係を深く育むことが出来ました。

実施結果

オンラインサロンにすることにより、気軽に参加することができ、また、夜遅い時間（21　時）からの開催とすることで、お子さんが寝る、もしくは、落ち着かれているときに、参加が出来ました。昼間の会も数回オンラインとリアルの回と行いました。その結果、知り合いも増えて、相談もしやすい雰囲気となりました。、

ご参加された保護者の方からは、「このような会は、どこを探してもなかなか見つけることができなっかたので、大変ありがたいです。」

「オンラインで、しかも夜の時間帯でしてくれるのは、助かります。」など、感想をいただきました。

オンラインサロン全 7 回実施、合計で、66 名の方にご参加いただきました。

事業の課題と今後の展望

事業計画の段階では、オンラインで無料という内容ならば、全国から参加される方がいるのではないか、という予想をしておりましたが、

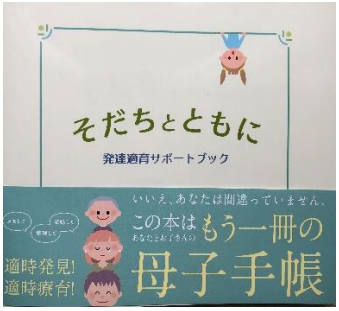
広報活動が弱かったりしたのか、実際には、横浜、川崎市内の方や、元川崎市内の方など、関東近辺の方がほとんどでした。

区役所、社会福祉事務所、町内会掲示板や子ども文化センター、近隣小学校にチラシを置かせていただきました。

地域のタウンニュースにもとりあげていただきましたが、中々そこからお申し込みをしてくる方はいませんでした。当団体会員の口コミにより、少しずつ増えていきましたが、予定よりも、かなり少ない人数でした。

広報手段をもう少し考えなくてはいけないと感じました。

12 月の講師土崎様



土崎様の著書

リアル会場でのエコバックを作りながらの会

2022年度かわさき市民公益活動助成金　事業成果PRシート

スタートアップ助成

団体名	ポーラスター
事業名	住み慣れた地域で最期までいきいき心地よく暮らすことができる緩やかな関係づくり。

目的・背景

本事業は、希薄化している地域コミュニティを活性化するために、互いが心地よい距離感で気にかけあえる、緩やかなつながり作りを目的としている。

現状として、令和元年度の川崎の市民アンケート調査の結果において、社会活動・地域活動に参加しない理由として、「きっかけがつかめない」と 4 割の人が回答していた。

お互いに心地よい関係、つながりを形成するためには、誰もが気軽に参加しやすい、ハードルの低い交流の場、心地よい距離感と感じる場が、社会活動・地域活動への参加のきっかけとなるよう本事業の活動を始めた。

事業の効果

1. 継続的な活動により、「はじめまして」からはじまり、「顔なじみの関係」へ。お互いを気に掛ける関係が緩やかに構築される。

2. 認知症・困りごとを抱える当事者とその家族の現状を知ることで、身近に自分と同じ思いを抱える人がいることを知り、いつもの顔なじみに「助けて」「困っている」と話せることで、安心感を得たり、お互いに助け合ったりできる地域環境が育まれていく。

3. 高齢者や病気を抱える人であっても、交流の場での分かち合いが、誰かを元気づけ学ぶきっかけとなっている。互いに個々の強みを再発見し地域の活性化に関わっている一人であるという福祉意識が醸成され、助け合いが自然体で当たり前に行われていく地域へと成長していく。

実施結果

1. 活動開催実績

1)ラジオ体操：週 2 回、59 回開催。参加者のべ 1,135 人。

2)講座・座談会など：26 回開催。参加者のべ 147 人。

2. アセスメント及びヒアリング・インタビュー形式のアンケート結果

2-①顔なじみができたと思う：参加者全員が「そう思う」と回答。

2-②互いに気にかけあうようになった人：参加者全体の 8 割。

2-③認知症当事者や家族について必要な支援をしたいと思う人：全体の 2 割。約 6 割が「自分が認知症になるかもしれない」、「負担に感じる」などの声があった。不安な声を上げる一方で、活動の場では認知症の人や病気を抱える人を気にかけ、声掛けやサポートする姿が見受けられた。

事業の課題と今後の展望

1. 本事業で拾い上げた声を生かし、参加者にとってより身近な事柄を座談会テーマとし、参加者の気づきの場・声を拾う場として運営していく。

2.「2022 年度かわさき市民公益活動助成金」の申請理由としてあげていた①②について、本年度にほぼ達成したと考えている。

①個人情報に関わる相談を受けたり、専門機関につなげたりする活動を行うため、公的な助成金申請の審査・交付を受けた団体としての信用を得たい。

②本団体は設立間もないため、運営を軌道に乗せるまでの資金を必要としている。

次年度以降は、本事業で学び得た事業運営・講座企画などのノウハウや参加者・地域とのつながりを生かし、自立した活動運営を行っていく。

ラジオ体操

座談会

講座

2022年度かわさき市民公益活動助成金　事業成果PRシート

スタートアップ助成

団体名	多摩川と周辺の環境を考える多摩区の会　（多摩川の会）
事業名	多摩川を知る（学習会・見学会）

目的・背景

2019 年 10 月の台風 19 号による多摩川の増水と内水氾濫により、多摩区の三沢川合流付近では 1.2m以上の冠水が続いた。被害に遭った方々を中心にして、多摩川周辺の住民（多摩川低地や多摩丘陵に居住）と共に、多摩川とその周辺の環境や防災（風水害・内水氾濫・地震・液状化・土砂災害・火山災害等）について学習し、その現状と課題について理解を深めることを目的とする。また、学習会や見学会の機会を設け、多くの方々に地域の安全と安心について一緒に学ぶ事を目的としている。

事業の効果

2 回の学習会（参加者 18 名・13 名）と 1 回の見学会（参加者 16 名）を実施し、その都度アンケートを行った。いずれの事業も好評であり、80－85%の参加者が「とても良かった・良かった」との回答を寄せ、次回の事業に期待している。「多摩川の会ニュース」（7・9・10 号など）で事業の内容を伝え、様々な意見と感想を共有できた。また、今後の案内も紹介し、会の活動について理解と協力の深まりを得ることもできてきた。

実施結果

6 月 17 日　第 1 回見学会 「大丸用水現地見学会」

案内：小川三男氏（いなぎエコ・ミューゼ　前代表）

9 月 28 日　第 1 回学習会 「災害を生き抜くための井戸とトイレを考える」

講師：金子尚史氏（小平井戸の会　代表）

11 月 9 日　第 2 回学習会「地名から探る多摩川の流路変遷」

講師：菊地恒雄氏（日本地名研究所　事務局長）

事業の課題と今後の展望

事業開催が平日に偏ることがないよう参加者増に配慮するとともに、学習会の後半には参加者からの意見や感想の時間を多く取り、見学会の終了時にはその場での意見交換の機会を設けたい。

大学連携事業に参加し、HP・リーフレット・動画の作成・提供をいただくことで、2023 年 1 月より HP を公開した。今後は HP の更新に努め、会の広報活動の拡充をさらに行い、行事の宣伝・申し込み・感想を集約し、イベント保険の申し込みも Web 上で扱えるようにしたい。

他の関連団体（ミュー・ラボ、鶴見川ネットワーキング等）と連携し、具体的な実践例を学びたい。

とりあえずは 10 年を目安に活動を継続・発展させ、会の基盤を強化していく。会の一定の総括として、市民向けの防災教本「多摩川と周辺の環境を考える」の刊行をめざしたい。

第 1 回　学習会 2022／9.28「災害を生き抜くための　井戸とトイレを考える」

第 1 回　見学会 2022／6.17
「大丸用水」

第 2 回　学習会 2022／11.9
「地名から探る多摩川の流路変遷」

2022年度かわさき市民公益活動助成金　事業成果PRシート

スタートアップ助成

団体名	80歳からの生き方講座研究会
事業名	100歳大学連携「楽しい80歳からの生き方を学ぶ」講座事業

目的・背景

・人生100年時代80歳以上を生きる高齢者が2060年まで増加する。長生きをすることは良いのですが、70歳後半から老化現象が激しくなる。また80歳になると活動から引退する人も増えるため、80歳からの生き方に不安を感じる高齢者が増加する。そのような不安にこたえることを目的とする。

事業の効果

80歳から生きる高齢者に80歳を生きる心構え、健康づくり、生きがいづくり、地域・社会参加の仕方、人生100年時代の80歳像・事例紹介講座を開催する。この事によって80代でも地域で生きがいある元気な高齢者を増やすことに貢献します。

実施結果

・参加者は60代～80代まで一般高齢者20名が参加いただき、盛り上がった講座となった。その参加者の多くの方々から大変参考になったとの評価を頂きました。具体的意見として次のような内容です。

・参加者の方々から地域での活動場所を確保したい

・自分の人生は自分で切り開くこと、世のために何ができるか探します。

・つながりの多い人はない人に比べ幸せで長生きである。

・講座を通して学んだことは今回80歳からの生き方であったが、そのためには50～65歳、65～80歳のキャリアがつながっていることを強く共感したので、59歳から100歳まで通したシニアライフ講座を実施したいと思いました

事業の課題と今後の展望

・80歳からの生き方研究は世の中これからの分野でもあるので、引き続き続けて行きたい。

・2022年度の新研究会成果を入れた、講座を考えてみたい。その内容は①世代間交流の研究②女性の積極的活動の研究③スマートフレイルの研究④ネットによるつながりの研究を生かしてゆきたい。

・50～100歳までの通したシニアライフ講座を考えたい

・そのためには2023年度は50代のシニアライフの生き方研究を1年間進めることを検討します

卯尾講師

吉田講師

会場全体

2022年度かわさき市民公益活動助成金　事業成果PRシート

スタートアップ助成

団体名	しんゆり親の会　Our Place
事業名	しんゆり親の会　Our Place

目的・背景

文部科学省によれば、令和 3 年度全国の小中高の不登校生徒数は約 30 万人に達したとのこと。実際はもっと多いとされており、どこに助けを求めたらいいかわからない人たちが大勢いる。

そこで、不登校、ひきこもりで困っている人たちを中心に、子育てに関する悩みを気軽に相談できる場を提供し、専門家から定期的に学び、ホームページを開設して多くの人に親の会のことを周知することを目的とした。

事業の効果

この事業をしたことによって、次の効果が生まれた。

① 共感：不登校、ひきこもりで困っている人たちが月に 1 度集まり、お互いの話に耳を傾け、情報交換することで、悩んでいるのは自分 1 人だけではないとわかった。

② 学び：どう前向きに子育てをすればいいか、またどう子供に寄り添えばいいかについて、専門家を定期的に招いて共に学び、それを家庭で活かすことが出来た。

③ 周知：ホームページを作成/公開して、困っている人たちが家からでも検索して情報を得ることが可能になった。

実施結果

① 毎月の親の会の集まり：コロナ対策を念入りしつつ、開催することが出来た。平均参加者人数は 15 人。

② 年に 4 回の専門家による子育て・教育悩み相談会開催：本当に困っている親たちに対して必要なアドバイスをもらえた。平均参加者人数は 19 人。

③ 年に 2 回の専門家によるミニ講演会開催：親と子が直面している諸問題から子育てを考えるというテーマで講演をしてもらった。平均参加者人数は、21 人。

事業の課題と今後の展望

・今回助成金のおかげでホームページを開設することが出来たので、今後どんな情報を掲載したら、より多くの人の助けになるかを考えていきたい。

・子育てに悩んでいる親が笑顔でいることも大切だと考え、ストレスを軽減するリラクゼーション体操や、音楽セラピーを導入したいと考えている。

・川崎市内で活動している他の団体と連携して、どうやったら地域により貢献できるか考えていく。

月一の親の会の様子

開設したホームページのトップページ

夏に開催した子育て・教育悩み相談会

2022年度かわさき市民公益活動助成金　事業成果PRシート

スタートアップ助成

団体名	かわさき芽吹塾
事業名	中学生と高校生に学習支援や居場所の提供

目的・背景

「貧困問題、教育格差、子どもの孤立」の3つの社会課題を解決すること。現代の教育においては「学校」に加え、「学習塾」が子どもたちにとってなくてはならない存在となっている。そのため、有料の塾に通うことができない子どもたちは、勉強に対しての不安が大きくなり、勉強へのやる気をなくしてしまっているのが現状である。また、学校に行くことができない子どもたちが増えており、社会から孤立してしまっている。このような問題を解決するために、完全無料で学習支援や進路相談、イベントの実施などの居場所の提供を行っている。

事業の効果

学習支援や進路相談、イベントの開催などによる居場所の提供を行うことで、教育格差や子どもの孤立という社会問題の解決に繋がっていく。また、フードパントリーや衣類・文房具等の寄付を行い、経済的な不安を抱えている家庭の負担を減らしていくことで、貧困問題の解決に繋げることができる。

実施結果

①受験生全員第１志望合格

2022年度入試では、昨年度に続き受験生18名を第1志望に合格させることができた。

②子どもたちに同年代の大学生や同級生と関わる機会の提供

授業を通じて年の近い大学生と関わる機会を作ることができた。また、イベントなどの機会を提供することで、大学生と生徒だけではなく、生徒同士の交流を生み出すことに繋がった。それにより子どもたちに多くの人と関わる機会を提供することができた。

③アンケート結果

「経済的な面での支えとなったか」という質問に100%のご家庭が「はい」と回答した。「当塾に通うことで成績や勉強のやり方等の不安が解消されたか」という質問に96%のご家庭が「はい」と回答した。「当塾に通うことで多くの人と関わることができたか」という質問に96%のご家庭が「はい」と回答した。

事業の課題と今後の展望

課題

① ボランティア講師の参加率が低い

② 生徒の接し方や言葉選びに問題があった

③ 他のボランティア団体や企業などの他団体との協力が少なかった

④ 物品寄付実施の頻度が少なかった

今後の展望

① 講師向けのイベントを開催

② 講師の研修会の実施

③ 地元の座談会や行政活動に参加する

④ 物品寄付を月１回以上実施する

授業風景

クリスマスイベントの様子

ボランティアの先生

2022年度かわさき市民公益活動助成金　事業成果PRシート

スタートアップ助成

団体名	Kawasaki 公園ゴルフ協会
事業名	公園で、楽しい「Kawasaki 公園ゴルフ」体験教室

目的・背景

地域の方々の多くは、各々の事情によって外出する機会が少なく、地域活動に参加や公園などの公共施設を利用することも少ない現状があります。

家から出る機会を増やす手段として、体験教室を開催し、参加者を増やすことで、健康増進、ストレス解消の効果を体感できる場を提供し、参加者間のコミュニケーションが深まり、地域活動にも参加してみようとする機運を高めることができます。

事業の効果

体験教室の参加を何処で知ったかでは、全員が友人紹介で、ポスター掲示による効果がありませんでした。

楽しむことができた方は、100%で、目標の 70%を達成できました。

健康作りに役立った方は、約 44%で、目標の 70%以上を達成できませんでした。

エコ生活を感じた方は、約 44%で、目標の 70%以上を達成できませんでした。

地域活動に参加したい方は、約 44%で、目標の 70%以上を達成できませんでした。

実施結果

体験教室を[5 回]開催し、新規体験者数は[11 名]のアンケートの結果は、次の通りです。

・男性・・・・[67%]　女性・・・・[33%]
・60 歳代・・[22%]　70 歳代・・[56%]　80 歳代・・[22%]
・どこで知りましたか（友人）・・・・・・[100%]
・経験は初めてですか・・・・・・・・・・ [78%]
・楽しむことができましたか・・・・・・・・[100%]
・今後も続けたいですか・・・・・・・・・・[44%]
・健康作りに役立ちましたか・・・・・・[44%]
・　エコ生活を感じましたか・・・・・・・・[44%]
・地域活動に参加したいですか・・・[38%]

事業の課題と今後の展望

体験教室の開催数、参加者数の目標を達成できなかった原因は、ポスター掲示による効果がなかったことに対する再検討が不十分であり。また、地域に深く関われておられる皆様とのコミュニケーションが不足していました。

ポスター掲示で効果を上げるために、町内会の回覧板にポスター綴じ込みを依頼して、地域の皆様に、楽しみながら健康増進、ストレス解消に役立つことをPRしたいです。

地域の深く関わられている町内会長、老人会長とのコミュニケーションが不足していたことを反省して、本事業によって地域皆様の健康増進、ストレス解消などに貢献できることをアピールしたいです。

2022年度かわさき市民公益活動助成金　事業成果PRシート

スタートアップ助成

団体名	一般社団法人 Thoughtful Gift
事業名	他人事じゃない？～様々な業界の現場からメンタルヘルスを考える～

目的・背景

2020 年精神疾患での労災認定は過去最多となり、精神科に入院する方は全国で１日１，０００人と言われています。精神疾患は、なりやすい人・なりにくい人が居るわけではなく誰でもなる可能性があるにもかかわらず、いまだに社会では弱い人が精神疾患になるという偏見があります。

神奈川県では現役世代ともいえる20歳～65歳の精神科への入院は年間約5，200人おり、今は元気で働いている人も精神疾患を自分事ととらえ、頼る場所や支援している存在があることを知っておいて欲しいと考えています。

そのため、アスリートや IT 業界といった障害者福祉や精神科医療とは違う角度から入るイベントを開催し、精神疾患に少しでも興味を持ってもらうことを目的としています。

事業の効果

まずはメンタルヘルスについて自分事として捉えてもらう機会を作ることが出来たと思います。事前に登壇者への質問を募り「メンタルヘルスに問題を抱えていそうな人が周りにいたら、どうしてあげたらよいですか？」「心の回復力（レジリエンス）を高めるために日々行っていることはありますか？」などに対して回答しながら進めていき、実際の相談先としての提案資料(専門家と大学生で共同作成)も作成・配布しました。参加者の感想では「現状を知るだけでなく、「では、どうしたらいいか」に力点を置いて学ぶことができたイベントだった」といただけました。

精神科入院が身近でない方にも Thoughtful Gift の活動内容が伝えることが出来、アンケートで今後も Thoughtful Gift の活動を支援していきたいと答えた方は約8割となりました。

実施結果

申し込み者数45名、事後アンケート回収19名「受講後、ご自身の考えに何か変化した点はありましたか？」に対して変化した点はあったと答えた方が78%となり

「人に頼ることに抵抗がなくなった」「いろんな立場からの意見や知ることができ、精神疾患やメンタルヘルスについてもっと理解を深めたいと思えるきっかけになった。」「題の通り、様々な立場から、その人のことばでお話し聴けたことで感じることが多くあり、新たな視点や具体的な情報、受け取るものがとても多かった」などの感想が集まりました。

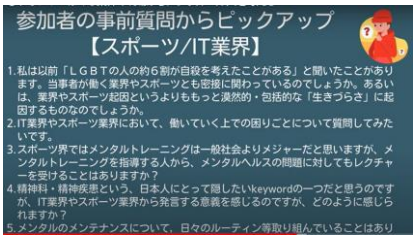
イベントに参加して精神疾患を”自分事”として捉えることが出来たと答えた方が約9割となりました。

事業の課題と今後の展望

メンタルヘルスについて興味が無い、自分事として感じていない人に対してアプローチしていきたいのですが、どうやってイベントに興味をもってもらうのかが課題になると感じています。また、イベントを行うタイミングも大学生の参加を促すなら宣伝期間と夏休みや試験期間が重ならないほうが良いというアドバイスもいただき、実施タイミングについて検討したいです。参加者の事前質問を吸い上げる形で登壇内容を考えたので参加者と登壇者の心理的な距離が近いイベントとなったと思います、この点は今後も続けていきたいです。

質問に答える村上愛梨選手

左から村上選手、ファシリテーター蓮見さん、一般社団法人 Thoughtful Gift 理事中島。



事前質問を集めて多かった内容順に登壇者が答えていく形をとりました。

2022年度かわさき市民公益活動助成金　事業成果PRシート

スタートアップ助成

団体名	一般社団法人 FARM スポーツコミュニティー
事業名	「50・60代から始める手習い　テニス編」

目的・背景	事業の効果
高齢者から始めるスポーツとして球技は、ほとんど存在しません。 注）ウォーキング、筋力トレーニング、サイクリング、ジョギング・ランニング、水泳、体操など一般的 始めてみたいが、今からにわざわざスクール（定期的）に入るのも好まない。 そんな皆さんに 1 回でそのスポーツ（テニス特性）を楽しめるような講座を開きます。	高齢者のスポーツを通じた健康づくり・仲間づくり」 ・球技スポーツでも簡単に始め楽しめることの実感 ・個人スポーツとは違った楽しさを体感 ・長く続けられることでの健康増進 ・「楽しめる仲間づくり」 ・年間を通したスポーツ実施率向上 ・次世代への伝道（部活や地域）への指導活動
実施結果	**事業の課題と今後の展望**
◎3 回計画していたが 2 回しか受講者が集まらなかった。また 1 回の定員 MAX は 6 名であったが 2 回の合計が 7 名。最大人数 18 名の 4 割であった ◎ある一定の効果は得られたと考える 由）アンケート回答より ・テニス：今後も続けてみたい ・スポーツの意義：スポーツすることは楽しい ・参加して：大変良かった ◎参加された方の多くはスポーツをすることの楽しさを実感し、テニスは難しいが、1 回でラリーを楽しめるとは思わなかったなどの意見を貰い、人数では成功とはいえない満足度としては成功と考える	課題：集客をスムーズに行う手段、方法 展望：継続による認知度を高めることで多くの人に初めてでも楽しめるという事は実証できたので少しずつでも開催していきたい

ボールとラケットの関係性について説明

ラケットとボールを扱ってみる

ラリーのきっかけ作り